



# 浜家連 ニュース 4月号

第212号

平成30(2018)年4月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会  
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1725 番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階  
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836  
URL <http://hamakaren.jp/>

## 3月の苦勞一施策要望とりまとめ

副理事長 大羽更明

毎年この時期になると悩ましい苦勞に付きまといわれます。花粉症ではありません。浜家連の理事会でのこと、施策要望事項のとりまとめです。

浜家連の施策要望書は5月初旬に翌年度の予算要望として健康福祉局と市会の各政党派宛てに提出します。昨年は6年計画の「障害者プラン」の中間見直しの時期と重なり、福祉計画のより一層の充実を求めて多数の細かい要望事項をとりあげました。市会の議員さんたちから「浜家連が一番重要だと考えているのは何ですか」と云われたので、今年は仕切り直しです。多岐にわたる要望を整理し、「重点要望項目」を絞り込んで理事会で検討します。国や市が計画している福祉施策の動向もみながら検討を進めています。

今年参考にしているのは、(1)昨年11月から交わされてきた理事の皆さんの意見、(2)見直し後の障害者プラン素案(平成30~32年度の障害福祉計画として市会の承認を得る予定)、(3)昨年の要望書に対する市長回答(政党経由の中間回答)、(4)平成30年度の予算概要(年度内に市会承認予定)、(5)平成30年度障害福祉サービス等報酬改定における主な改定内容(厚労省の方針)などです。

中でも最後の(5)は、国の重点施策を示すもので、来年度の横浜市の施策にも大きな



影響を与えると考えられ、スルーできません。未だに進まない長期入院者の地域移行については、退院後のいわゆる「受け皿」となる生活の場の支援に力を入れる方針のようです。「日中サービス支援型共同生活援助(重度・高齢の精神障害者のために従来より世話人を手厚く配置したグループホーム)」、「自立生活援助(横浜市の自立生活アシスタントに似た個別訪問支援)」、「地域生活支援拠点(障害者の居住生活を地域全体で支えるためのサービス提供で、①地域相談コーディネーター、②緊急短期入所受入、③日中活動サービス体験利用支援、④生活介護に重度障害者支援人材確保、⑤地域体制強化の機能をもつ)」など、聞きなれない新たな福祉施策が報酬の対象になっています。

(4)の市の予算概要については、理事会で健康福祉局からの説明を受けました。平成30年度から新たに予算をつけて着手することになったのは、生活支援センターの再編で、B型の生活支援センターの機能を強化してA型との格差を解消しようとするモデル事業です。開所日、開所時間、人員配置をA型で縮小し、B型で拡張する方向です。基幹相談支援センターへの人員増で「地域生活支援拠点」のコーディネーター機能を果たすことも含まれています。

また、非公式ではありますが、健康福祉局の障害企画課に精神障害関係を専任する担当課長が配属されるという話も聞こえてきます。他の障害にくらべて遅れている精神障害者福祉サービスが強化されるのではないかと期待されます。

横浜市は他の市町村に比べて精神保健福祉施策が進んでいて、さまざまな制度・施策が重層的に機能するように整備されていると云われています。医療と福祉の支援につながって希望を持ってその人なりの充実した人生を過ごしている精神障害者は増えています。ピアとして仲間のリカバリーに力を発揮している方もさほど珍しくありません。

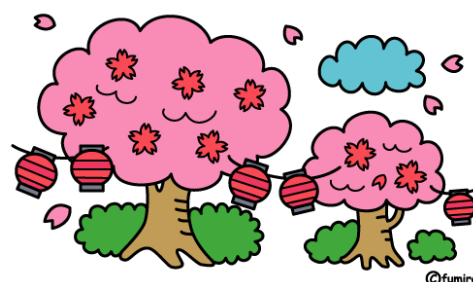
けれども、そのような資源を上手に利用し切れずに困っている人も大勢います。制度や施策を知らない、知っていても運用面で利用しにくい、利用資格の要件が自分に合わない、利用価値がないと感じる、医療と福祉の連携が進んでいない、など理由はいろいろとあるのでありますが、行政にその実態を知ってもらい、なんらかの改善をお願いするのが施策要望です。

たとえば、今浜家連が来年度の重点施策要望案として検討しているのは、グループホームの拡充です。グループホームは、「長

期入院者の地域移行・地域定着」、「家族関係の問題解決のための別居先」、「自立生活への移行ステップ」、「重度・高齢障害者の地域での住まい」、「措置入院者や触法障害者の退院先」、「(知的障害を伴う場合の)施設からの地域移行・地域定着」など重要な役割を担う支援です。横浜市はこの施策には力を入れていて毎年200人分のグループホーム新設目標で運営事業者を募集しています。

けれども、今までは、グループホームへの入居を希望しても、安定した通院ができて、日中の通所先がある、良好な同居人との関係がとれる、困ったときにSOSを発信できるという一定程度の生活の自立度がないと、受け容れてもらえませんでした。グループホームを運営する法人の話では、支援の厚い世話人さんの配置をしようとしても、夜間の勤務の厳しさから人材を確保するのはとても難しいそうです。職員さんの処遇改善も含めて、グループホームを必要としている精神障害者がもっと利用できるようにしてほしいものです。ここにきて、国は平成30年度から重度・高齢の障害者向けに常時の支援体制を確保した「日中サービス支援型」のグループホームに助成をする方針を打ち出しました。より手厚いケアのついたグループホームという構想と、募集しても支援者が確保できないという現実の矛盾は解決しなければなりません。それを強調した要望にしたいものです。

健康福祉局の担当者と市会の議員の方々のご理解をいただけるような工夫もしながら、6月以降の要望説明会に備えたいと思います。



## 浜家連の動き

.....



**\*\*\*\*\*平成30年度年間啓発事業（案）が決まりました\*\*\*\*\***  
(浜家連研修会・市民メンタルヘルス講座・ブロックフォーラム)

平成30年度の啓発活動の日程、内容等が決まりました。今から手帳に書き込んでいただいて、各イベントにお誘いあわせてご参加ください。

### 【浜家連研修会】

会場：横浜ラポール2階 大会議室

	日時	テーマ	講師
第1回	6月15日(金)	精神科病院での拘束について	杏林大学 長谷川 利夫 教授
第2回	7月19日(木)	訪問看護ステーション 「てとて」からのお話	増子 徳幸 氏
第3回	9月21日(金)	家族支援について	鈴木 高男 氏
第4回	11月16日(金)	当事者からの体験談	コーディネーター 武田 綾 先生 適応障害、統合失調症、 双極性障害等の当事者
第5回	12月 7日(金)	やどかりの里についてのお話	増田 一世 氏

※第2回～第5回のテーマについては仮題

### 【市民メンタルヘルス講座】

会場：横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

	日時	テーマ	講師
1日目	10月21日(日)	わが国の精神医療改革の展望	氏家 憲章 先生
2日目	10月27日(土)	ストレス時代のメンタルヘルス	労災病院 勤労者メンタルヘルスセンター長 山本晴義先生

### 【ブロックフォーラム】

ブロック	実施日	会場	内容
Bブロック	9月29日(土)	保土ヶ谷公会堂	映画の上映
Cブロック	10月 6日(土)	磯子区公会堂	蔭山先生の講演
Aブロック	H31 3月17日(日)	緑区公会堂	武田先生の講演

### 家族学習会を開催しました。

#### “家族による家族学習会”を終えて

お正月気分が抜けきらない1月6日から梅花の香りが漂う2月24日までのほぼ隔週土曜日の5日間に、みどり会で初めての“家族による家族学習会”を開催しました。思えば、昨年5月の浜家連理事会にて“家族学習会”のお話をいた

#### みどり会 高塚 清・敬子

だき、“リーダー”、“コリーダー”の役割や“ゆで卵理論”もわからないままに、不安いっぱいの中で担当者研修会に参加したのがつい昨日のように感じます。

支援していただいた“浜家連”、“あおば会”、“緑区生活支援センター”、“緑区福祉保健センター”の方々ともどり会役員で、8月に家族学習会開催までの段取りを確認しましたが、その時はまだ実感がわきませんでした。稲垣、柏木両アドバイザーに細かな点までアドバイスをいただきながら家族学習会の案内用チラシを作成し、区役所や関係する機関の窓口に置いていただき、緑区広報や浜家連のHPに掲載される頃になると、「果たして参加申し込みがあるか？」ととても心配になりました。事前打合せをおこなう12月には、緑区・青葉区・港北区在住の計8名の参加者が決まり、担当者一同安堵しました。



第1回目の学習会は年明け早々の6日でした。開始2時間前に集合して、会場設営と進行確認をしっかりとこない、学習会は参加者・担当者などの自己紹介や目的・ルール確認に始まり、テキストの第1章の学習へとスケジュール通りに進みました。最初は参加者、担当者とも表情も硬く、なかなか盛り上がらない状態でしたが、担当者が息子との関わりをほほえましいエピソードを交えて話したことがきっかけで、場が和みました。振り返りで、井汲アドバイザーより「全体に和やかな雰囲気、担当者それぞれの個性が出ていて良かった。体験談を引き出すことが大事ではあるが、テキスト内容から逸れそ

うになったら、修正できるようにリーダーは気を配ってください。」とのアドバイスをいただき、改めてリーダー・リーダーの役割に気づかされました。2回目は、参加者、担当者との息がかみ合いテキスト内容に沿った内容でお互いの悩みや不安を語り合うことができるようになりました。3回目の振り返りでは、倉澤アドバイザーより「リラックスした雰囲気で行進できているが、コミュニケーションを上手におこなうには、担当者はただ聴くだけではなく具体的な問いかけが必要です」。さらに、林コーディネーターからは「和やかな雰囲気が良いが、もっと参加者の発言を促すように。」とのアドバイスに担当者一同納得しました。4回からは参加者との意見交換もしっかりできるようになりました。最終日の振り返りでは「参加者も担当者も皆さん、お子さんのことを真剣に考えていることが伝わってくる。」とのコメントをいただきました。

家族学習会を通じて、『子供をどのようにサポートするかをそれぞれの家族が真剣に悩み考えていること、支える家族へのサポートも大事なことだ。』と改めて感じました。

この“家族による家族学習会”をおこなうに際してご指導ご協力をいただいた“浜家連”、“あおば会”、“緑区生活支援センター”、“緑区福祉保健センター”の方々に深く感謝申し上げます。

## § 本の紹介 §

### 精神障がいのある親に育てられた子どもの語り

— 困難の理解とリカバリーへの支援

横山 恵子/蔭山 正子【編著】

定価 2,700 円

発行元 明石出版

精神障がいのある親に育てられた子どもの体験談を紹介し、ライフサイクルに応じてどのような困難に遭遇したかを整理。さらに18歳未満の子どもとその親に関わる主な支援機関による支援の現状や課題、今後の展望などを論じる。



【編集後記】桜の開花と共に、入学式や入社式のニュースが流れてきます。真新しいスーツを着たピカピカの社会人1年生の姿を目にします。浜家連でも新年度に向けて、さまざまな計画がたてられています。来年度はこれまでも増して実りある活動ができるよう、皆でがんばりましょう。なお、平成30年度第10回通常総会は5月29日（火）に開催予定です。（事務局 中居）